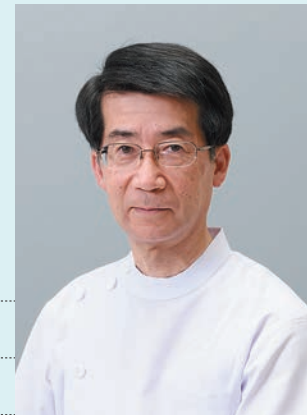




基底細胞癌について

皮膚科 野村 佳弘



基底細胞癌は、日常診療で遭遇することの多い皮膚癌の一つです。顔面、特に下眼瞼、鼻およびその周囲に好発し、黒点を伴う小結節として始まり、大きさを増すとともに黒色斑が拡大して、やがて中央部が潰瘍化するという経過が特徴です。深部に浸潤、増殖して筋、骨組織を破壊することがありますが、転移することはほとんどありません。外科的切除で根治が得られますが、術後に整容的な問題を残さぬために早期診断が大切です。進行した典型的な病変は臨床像から診断できますが、早期病変はホクロ（色素性母斑）に似ているので、見逃されることも多く、視診での診断は難しく皮膚生検が必要でした。

ダーモスコピーは、色素性皮膚腫瘍の診断、鑑別のために行う非侵襲的な検査法です。黒色調であることが多い日本人の基底細胞癌では、ダーモスコピー所見は診断的価値が高く、早期病変の診断においても有用です。主訴は別件でしたが、問診中に患者さんの顔面のホクロに違和感を持ちダーモスコピーを勧め、その所見が典型的であったため皮膚生検を省略して基底細胞癌と診断したこともあります。

顔面のホクロで、光沢を伴う、硬く触れる、洗顔時に出血することがあるような場合は、皮膚科での診察を勧めてください。



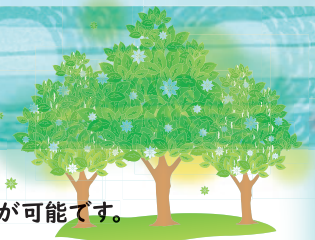
典型的な基底細胞癌



左頬の4mmのホクロ様小腫瘍



ダーモスコピー所見：樹枝状血管、大型類円形青灰色胞巣の所見より基底細胞癌と診断



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催） ※会場またはWEBでの参加が可能です。

日時：10月12日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討

(1) 「感染創、瘻孔に対する持続洗浄局所陰圧閉鎖療法」

形成外科 宮下 松樹

(2) 「冠動脈薬剤溶出性ステント留置後に晩期再狭窄・再閉塞を来した1例」

循環器内科 長森 勇多

2) ミニレクチャー

「注意すべきダニによる病気について」

皮膚科 野村 佳弘

ダニは吸血により虫刺症を起こし、その死骸や糞が気管支喘息・アレルギー性鼻炎の原因になることはよく知られていますが、それ以外にも人に重大な害を与えることがあります。

疥癬は、ヒゼンダニが皮膚角質層に寄生することで発症する感染症です。1～2カ月間の潜伏期間を経て、体幹、四肢に夜間に強いかゆみを伴う発疹が出現しますが、初期症状の診断は難しいです。手足の疥癬トンネルが唯一の特異的な発疹で、そこから角質を採取し顕微鏡検査で虫体、虫卵を検出することで診断します。通常疥癬は濃厚接触で感染しますが、免疫力の弱い高齢者や長期間のステロイド剤外用が行われた患者等で発症する角化型疥癬は、直接接触を介さず感染するため、老人施設や

病院などで集団感染を起こすことがあります。

マダニは野生動物が出没する山林のみならず、平地の畑や草むらにも生息しています。マダニは吸着すると、約1週間吸血を続けます。早く気がつけば鑷子でつまんで除去できますが、24時間以上経過すると引き抜いても口器が残るので、切除が必要になります。マダニはライム病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、ダニ媒介性脳炎などの感染症を媒介するので、刺咬症後の数週間程度は発熱、発疹等の体調の変化に注意が必要です。また、マダニの唾液に含まれる糖鎖galactose- α -1,3-galactose (α -gal)に感作され、牛肉やセツキシマブに対してアレルギー症状を起こすことがあります。

予告 11月の予定は下記のとおりです。ご参加お待ちしております。

日時：11月9日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例（担当）呼吸器血管外科 外科

②ミニレクチャー 1題（担当）呼吸器内科

地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましてはZOOM会議のご案内に関して参加される先生がたの利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスまで送信して下さるようお願いいたします。

ttm2168@tch.toyama.toyama.jp（地域医療連携室）

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

衛星研修S-QUE研修は、今年度より開催中止となりました。



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

がん看護専門看護師の活動について

がん看護専門看護師 中井 尚美



昨年度がん看護専門看護師の資格を取得し、がん何でも相談室で勤務しながら、市民の皆様から寄せられる「がん」に関する疑問や悩みについて共に向き合い、ゆっくりとお話を伺わせていただいています。

がん看護専門看護師には6つの役割があり、がんを診断されてから治療や療養先の選択などの様々な意思決定の場面で一貫した水準の高い看護ケアを提供することを目標としています。

主な活動内容は、外来がん患者さんやご家族と面談し、個々に寄り添った看護ケアを提供し、入院後は病室へ訪問し退院後も継続した支援を行っています。そのほか、倫理的な問題や調整することを見出し医療者間の相談に乗り橋渡し役を行ったり、がんの告知や再

発などのIC同席やセカンドオピニオンの対応を行っています。患者さんやご家族から「相談する窓口があるので安心します。」というお言葉を頂き、チーム医療を担うマネジメント能力の大切さを痛感しています。

様々な場面で選択を強いられるがん患者さんとご家族に継続的に関わる活動は、その人の日常生活や人生そのものを支え、地域へ帰るための手助けになると考えます。これからもがん看護専門看護師として、市民病院のがん医療の質を高め、地域からご紹介して下さるがん患者さんやご家族が安心してがん治療を受け地域へ戻れるよう、縁の下の力持ちになりたいと思っています。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

10月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	能勢	25日	歯科口腔外科	寺島	22日
	碓井	14日		高橋	19日
泌尿器科	児玉	21日		朝倉	11日
整形外科・関節再建外科	重本	8日	皮膚科	野村	29日
眼科	狩野	25日、26日、27日、29日		大村	7日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	20日	呼吸器・血管外科	土岐	1日
	里見	21日、22日		武内	14日、15日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

昨年の夏に引き続き、今年も“コロナ禍”の夏でした。毎年楽しみにしていた家族旅行へ行く事もできず、人混みを避けながら、どうやって子供たちを楽しませることが出来るのか… 親として頭を抱えているなか、ふと、ピクニックごっこをしたい!と長女からのお願い。お昼ごはんをお弁当箱に詰め、庭にレジャーシートを敷いて家族みんなで食べる。それだけの事でしたが、子供たちは大はしゃぎ。その喜ぶ姿をみて、何処へ行くのかではなく、何をするのが大切なんだと改めて実感しました。沢山の制限の中でも、楽しいことをすぐに見つけてくれる子供の無邪気さに助けられながら、一日も早いコロナ終息を願う毎日です。出来ないことを嘆くのではなく、今ある環境で幸せを見つけていけたらと思います。

臨床検査技師 林 寛子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp